

減災ニュース

和田三丁目東町会 減災プロジェクトチーム 情報 12

救急救命講習受講レポート(その2)

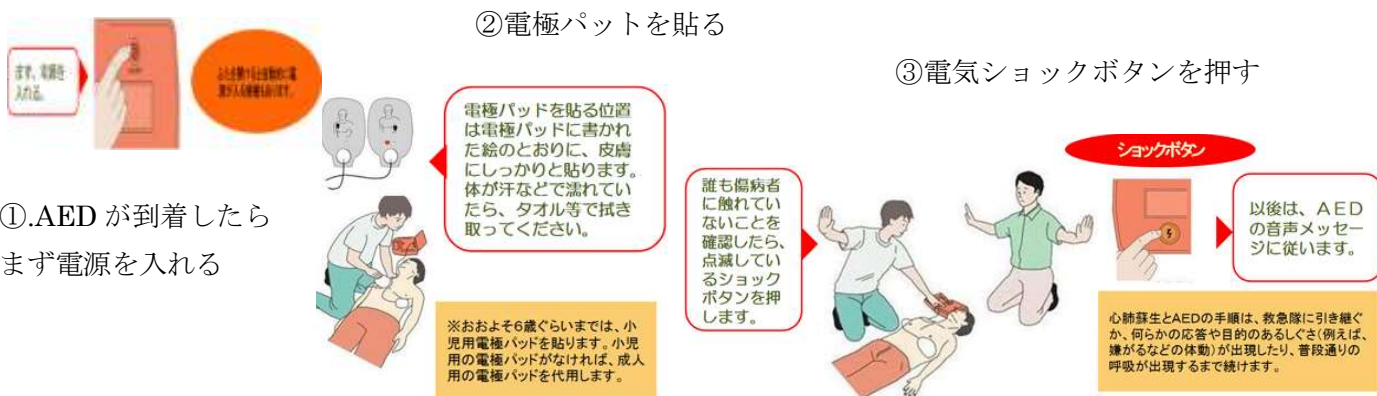
区主催の救急救命講習レポート第2弾。今回はAEDの使い方をご説明いたします。

AED（自動体外式除細動器 Automated External Defibrillator）とは

心臓に電気ショックを与え、止まった心臓を再起動させる装置です。心臓が止まっているのは非常に危険な状態ですので、一刻も早く心肺蘇生（前回ご説明）とAEDによる電気ショックが必要です。AEDはセットの仕方を音声で指示してくれるので、落ち着いて音声指示に従えば大丈夫。また自動的に心電図をとり、電気ショックが必要かどうか判断してくれます。電気ショックは0.005秒とほんの一瞬ですが、地下鉄パンタグラフ相当の3万ワットという高エネルギー電流が流れます。

AED操作手順

- ① AEDがきたら持ってきた人に「AED使えますか」と確認。ダメだったら、胸骨圧迫をタイミングを計り交替してもらい、自分でAEDをセットする。
- ② AEDセット時には落ち着いてAEDの音声指示に従う。まず電源を入れる。機器によっては蓋を開けると自動的に電源が入るものもある。電極パッドは相手の胸をはだけ、肌に直接貼る。相手が女性の場合、回りの人には後ろ向きになってもらう。体の上には何もかけないこと。貼る位置は相手に向かって右鎖骨下と左わき腹で、心臓が対角線上にくるように貼る。機器によってはコネクター接続や心電図解析ボタンを押す必要があるため、音声ガイドを注意深く聞く。心電図解析中は胸骨圧迫は中止する（重要）。
- ③解析終了し、ショック必要と判断されるとショックボタンを押せと言われる。「電気ショックをします。離れてください」と大声で周囲に指示。相手にさわっていると自分も救命措置が必要になる。電気ショック後ただちに心肺蘇生措置（胸骨圧迫、人工呼吸）再開。この時、AED電源はいれたままで、パッドも貼ったままにしておくこと。AEDは時間がくると音声ガイドとともに心電図解析を再開し、次の操作を指示してくれる。AED使用後は二人で胸骨圧迫と人工呼吸を分担して行うのが望ましい。胸骨圧迫者は声を出して30数え圧迫を中断、人工呼吸者が2回吹き込み、また圧迫再開のサイクル。相手に反応がでたら（声を出す、押しのける）措置を中止し、体を横向きにしてやる。



当町会近隣のAED設置場所

①高南中学校 ②杉十小学校 ③東高円寺駅 ④小池歯科 ⑤全国交運共済生協（NHK隣り）の5か所です。

減災設備ウォーキングマップでハートマークの位置を確認し、頭にいれておいて頂けると安心ですね。

（注：全国交運共済生協AEDはマップから洩れております。すみませんが加筆をお願いいたします）

お問い合わせ 松尾 03-5932-0083